

8. 日本前近代史の諸問題(1)―東アジアのなかの律令制／古代

2025.11.24. 大橋 幸泰

はじめに

ヤマト王権から律令制国家へ／中央への権力集中が、段階的に進行(推古朝→天智朝→天武・持統朝)

a.大王から天皇へ

b.氏族制(氏・姓による豪族の権力分掌)から官僚制(律令制による中央集権)へ

*それは東アジア世界の中で、どのような意味があったか？

1. 倭国と東アジア秩序

(1)ヤマト王権の確立と東アジア情勢

5C後期、地域首長と比較して、倭国王の優位性確保／ヤマト王権の確立／倭の五王

→6C、東アジア情勢の緊迫／朝鮮半島では高句麗・百濟・新羅の勢力争い、隋による朝鮮諸国への介入

→7Cにかけて戦争の展開とともに、朝鮮諸国・倭国の支配階級は、権力集中の方向を模索

(2)推古朝による国制改革

a.冠位十二階制定(603)／人材登用・官僚機構の整備／倭国の朝廷における外交使節の地位(序列)の明示

b.十七条憲法制定(604)／大王の権威の確立／東アジアの仏教と儒教を根拠

→大王への権力集中をはかるとともに、東アジア秩序のなかに倭国を位置づけることを企図

→遣隋使の派遣により大陸文化の摂取を志向

*倭国の王族・豪族による仏教受容も、王権の強化とともに、東アジア秩序への包摂という意味をもつ

2. 大化の改新から壬申の乱へ

(1)大化の改新と天智朝

中大兄・中臣鎌足によるクーデター(645)／蘇我本宗家滅亡

→翌年、「改新の詔」／ただし、信憑性は希薄(8Cに創作の可能性)／王権の自立を志向／大化の改新

*豪族の推戴による大王擁立から、王権の意志による大王継承へ

再び東アジア情勢の緊迫

*隋滅亡(618)後、唐による朝鮮諸国への介入／高句麗滅亡(668)、百濟攻撃

→唐・新羅軍と倭・百濟軍の戦闘／白村江の戦いで倭・百濟軍が敗戦(663)

→これを受けて、倭国では国制改革／中大兄(680大王に即位=天智)が主導／近江朝

(2)「天皇」の誕生

天智の死後、大海人(天智の弟)と大友(天智の子)が王権継承をめぐって対立／壬申の乱(672)

→大海人の勝利／翌年、飛鳥浄御原宮で大王に即位(天武)／近江朝の崩壊／有力豪族の権威失墜

→王権の権威増大／天武・持統朝、中央集権化の実現

*大王の称号としての「天皇」、王権の称号としての「日本」、使用開始との説

3. 律令制の成立

倭国の政治課題／唐からの自立、新羅への対抗／律令の整備へ

* 近江令(670頃)→飛鳥浄御原令(689)→大宝律令(701)→養老律令(718)

→官僚制の成立／地方支配の原理として国郡制成立

→律令制の矛盾／8C前期、社会不安噴出

a. 厳しい負担による、浮浪・逃亡の続出

b. 朝廷の東北・南九州への支配拡大に対する蝦夷・隼人の抵抗

c. 唐に対する渤海(高句麗の遺民が建国)の抵抗

→聖武天皇、仏教によって社会不安を払拭することを企図／鎮護国家

* 国分寺・国分尼寺建立の詔(741)、廬舎那仏(東大寺大仏)造立の詔(743)／天皇は「三宝(仏・法・僧)の奴」

4. 留意すべき点

(1) 「天皇」号の成立時期

・「大王」オオキミ／5C以降、日本列島の他の王より上位の王の意／当該期のヤマト政権は首長連合政権
・「天皇」スメラミコト／「澄む」＋敬称／命ずる主体の神威性を高める称号／スメラミコトという音そのものは推古朝(7C初)以前から存在／和語のスメラミコトに対応する漢語として「天皇」号が登場／中国の「皇帝」「天子」を避けつつ、対抗する意図

→公式令(行政文書を規定)／生前の事績を賞賛した死後の名「天皇諡」(和風諡号)を規定／たとえば、天武天皇は「天淳中原瀛真人天皇」アメノヌナハラオキノマヒト・スメラミコト

→8C後、唐風化政策の一環として、和風諡号から漢風諡号へ転換／「〇〇天皇」という称号の成立

* 「大王」から「天皇」への転回／発音の方法を含めて、段階的に移行

(2) 東アジアのなかの大和朝廷の律令制

7C、律令導入への志向性／しかし、天智朝までは試行錯誤段階／はじめから律令導入ありきではない

* 変転する東アジア情勢への対応の結果、天武・持統朝(7C後期)に実現

→一方で、律令制は民衆には厳しい負担を強いる／共同体から逸脱する人びとを多数生み出す

→8C中、聖武天皇による仏教の積極的導入／鎮護国家

* 天皇権威の源泉は、大王時代のアニミズム的呪術から、仏教という東アジア共通の宗教へ転換

おわりに

ヤマト王権から律令制国家への転換／変転する東アジア情勢と倭国内の社会不安に対応

* 中国の冊封体制からの離脱、東アジア共通の世界観への包摂と、という矛盾する両面を保持

【参考文献】

吉田 孝『日本の歴史2 飛鳥・奈良時代』(岩波書店、岩波ジュニア新書、1999年)

熊谷公男『日本の歴史3 大王から天皇へ』(講談社学術文庫、2008年)

大津透編『日本史の現在2 古代』(山川出版社、2024年)

【付記】

・明日までに、Waseda Moodleにて講義記録の提出を求める。

・小レポート提出期限 2026年1月18日／小レポートを提出した者が試験(2026年1月26日)の受験資格を有する。